

令和2年度

社会福祉法人スプリング

事業報告書

令和2年度 事業報告 目次

1. 社会福祉法人スプリング

- (1) 事業等実績概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- (2) 理事会・評議員会の開催状況・・・・・・・・・・・・ 10
- (3) その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
- (4) 職員に関すること・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
- (5) 施設の管理に関すること・・・・・・・・・・・・・・ 12
- (6) 防災・防犯に関すること・・・・・・・・・・・・・・ 13

2. 特別養護老人ホーム福寿草

- (1) 特別養護老人ホーム福寿草・・・・・・・・・・・・ 17
- (2) 福寿草ショートステイ・・・・・・・・・・・・・・ 25
- (3) 研修の報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26

3. ケアプラザ福寿草

- (1) 福寿草デイサービスセンター及び総合事業デイサービスセンター福寿草・・・・ 31
- (2) 認知症対応型デイサービスかりん及び
介護予防認知症対応型福寿草デイサービスセンターかりん・・・・ 33
- (3) 福寿草ヘルパーステーション及び日常生活支援総合事業ヘルパーステーション・ 35
- (4) 福寿草居宅介護支援センター・・・・・・・・・・・・ 37
- (5) 大館・東地区高齢者支援センター福寿草・・・・・・・・ 39
- (6) 研修の報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 42

4. ケアプラザさざなみ

- (1) デイサービスセンターさざなみ及び総合事業デイサービスセンターさざなみ・・ 47
- (2) ショートステイさざなみ及び介護予防ショートステイさざなみ・・・・・・・・ 49
- (3) ヘルパーステーションさざなみ及び総合事業ヘルパーステーションさざなみ・・ 51
- (4) 居宅介護支援センターさざなみ・・・・・・・・・・・・ 53
- (5) 研修の報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 55

5. 有償運送

- (1) 福寿草・さざなみ有償運送事業・・・・・・・・・・・・ 61

6. 事業報告の附属明細書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 62

(1) 令和2年度 事業等実績概要

令和2年度は、新規事業（ユニット型特養）開設と新施設への引っ越しと言う大きな変化を迎えた年度となりました。7月以降、新たな生活環境へ順応しつつ、色々な工夫をしながらサービス提供を行ってきました。現在では利用者も快適な環境で過ごすことができ、職員も良い環境のもとサービス提供ができています。

2年度も新型コロナウイルス感染対策に力を注ぐ年度となりました。手洗い、消毒等の標準予防策を徹底しながら、感染対策備品をしっかりと確保してきました。また、感染症拡大を想定した事業継続計画を策定し、訓練（シミュレーション）を実施しました。次年度も危機管理対策強化を継続していく必要があります。

ノーリフティングケアについては法人全事業の標準介護として定着しています。新たな介護福祉機器の導入も進み、利用者の安全と職員の負担軽減に繋がっています。

新施設開設に向けて、ICT（情報通信技術）推進の準備を進めていたこともあり、新施設移行後はタブレット端末を活用した記録管理が定着し、業務効率と記録物削減に繋がりました。

1. 重点施策

(1) 利用者人権を常に尊重し、サービスの質の向上に積極的に取り組む

- ・家族の面会については、緊急やむを得ない場合を除き、リモートでの面会が長期化している状況から、個々の状態変化や生活の様子について面会時や定期的な電話連絡により丁寧な説明に努めた。必要に応じては、タブレットを活用し動画での説明を行った。
- ・ノーリフティングケアについては、新たな移乗機器や立ち上がり補助機の導入を進め、身体状況に応じた安全な対応ができています。
- ・特養では転倒、転落防止等を目的とし、見守りセンサー（ベット内蔵センサー・遠隔での行動確認センサー）の導入により利用者の安全と職員の負担軽減に繋がっている。

①施設外での主な研修と参加人数

主な研修名	参加人数	合計
認知症介護実践者研修	1名	27名
認知症介護実践リーダー研修	0名	4名
介護福祉士ファーストステップ研修	0名	8名
ユニットリーダー研修	0名	4名
喀痰吸引等研修（2号研修）	0名	35名
医療的ケア教員講習会	0名	3名
合計（その他の研修を含めた延べ人数）	61名	

②施設内での主な研修

主な 研修	ノーリフティングケアの理解と技術	感染症対策に関すること
	身体拘束・高齢者虐待防止に関する事	事故防止に関すること
	認知症ケアに関すること	階層別研修

③保有資格状況

資格	人数
介護福祉士	103名
社会福祉士	6名
看護師	13名
准看護師	10名
管理栄養士	3名
栄養士	2名
介護支援専門員	34名
社会福祉主事	29名
第一種衛生管理者	2名
第二種衛生管理者	7名

※複数の資格を保有している職員がいるため、従事している職員数とは異なります。

(2) 良質な社会福祉人材を育成する

- ・ノーリフティングケア推進施設や働き方改革の取り組みに興味を示す求職者が徐々に増えてきている。法人の取り組みを興味深く、より関心を持ってもらえるようホームページのリニューアルを進めた。
- ・WLBに配慮した働きやすい職場づくりに関して「イクボスアワード2020」（厚生労働省）でケアプラザ福寿草所長がグランプリを受賞した。法人の取り組みが評価された結果といえる。
- ・各種研修については感染対策から例年よりかなり少ない状況となった。そうした中でも委員会からの発信を強化し、感染対策についても厚労省・県・市からの発出情報をもとに研修等を行った。
- ・人材確保について、介護福祉士養成校並びに生徒数の減少により獲得は厳しい状況となっているが、実習受け入れの継続と丁寧な指導の継続により、実習や就職先に当法人を選ぶ人材が増えてきている状況がある。（介護福祉士養成校担当者より）

《法人の取り組み状況》

<p style="text-align: center;">就業規則</p> <p>働き方改革を進める土台作り</p>	<p>労働基準法を遵守した就業規則の策定</p>
	<p>青森県介護サービス事業所認証更新</p> <p>・働きやすい職場づくりや人材育成、サービスの質の向上により、利用者や求人者から選ばれる事業所となるための取り組み評価</p>
	<p>次世代育成法に基づく行動計画及び取り組み実施（くるみん認定）</p> <p>・育児休業等取得の体制整備と実績 ・時間外労働の削減や年次有給休暇取得促進、多様な労働条件整備の措置のいずれかについて、成果目標を定め実施</p>
	<p>女性活躍推進法に基づく行動計画及び取り組み実施（えるぼし認定）</p> <p>・職業生活と家庭生活との両立を支援するための時間外労働削減の取り組み ・女性の管理職を55%以上とする</p>
	<p>イクボス宣言と県への登録継続</p> <p>※イクボスアワード2020 グランプリ受賞</p>
	<p>あおもり働き方改革推進企業認定更新</p> <p>・「働き方改革」の具体的取り組みを県に宣言し、ワークライフバランスの確立に積極的に取り組む</p>
<p style="text-align: center;">女性の活躍・継続・就業</p> <p style="text-align: center;">男性の家庭参画</p>	<p>妊娠等に関する制度の周知や情報提供及び相談体制の整備実施（支援マニュアルの活用推進）</p>
	<p>子の看護休暇取得、育児目的休暇取得</p>
	<p>配偶者出産休暇取得</p>
<p style="text-align: center;">ワーク・ライフ・バランス</p>	<p>長時間労働是正（ノー残業デイの実施）</p>
	<p>年次有給休暇取得促進、正職員転換制度の周知</p>
	<p>結婚休暇、資格取得支援制度の実施</p>

～厚生労働省主催『イクボスアワード2020』～

企業からの推薦による多数の応募の中から、ケアプラザ福寿草大久保友紀子所長が受賞。

イクボスとは…子育てに理解ある上司、子育てしやすい環境を整える上司のことで、自身の仕事と私生活のバランスだけでなく、共に働く部下や同僚の仕事と私生活も考慮して、彼らのキャリアと人生を応援しながらかつ組織としての業績や結果を出せるような経営者や管理者

《取り組みの詳細》

①職員の離職率及び離職者数

正職員

離職率	2年度の離職者数	
7.4%	新卒者	1人
	1年未満	1人
	1年～3年未満	2人
	3年以上	6人

パートタイム・嘱託

離職率	2年度の離職者数	
8.5%	新卒者	0人
	1年未満	0人
	1年～3年未満	1人
	3年以上	3人

②現任職員の平均勤続年数

平均勤続年数	10.7年（前年度より0.3年増）
--------	-------------------

③時間外労働

月平均	1人当たり 2.0時間
具体的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ノー残業デイ週2回の実施継続と呼びかけ ・時間外勤務を行う際、事前申請による勤務時間内への業務の組み入れ ・組織全体での時間外業務時間数の公開、評価の実施 ・時間外業内容の明確化と監督・指導職による分析及び、取り組みの実施

④年次有給休暇取得率

付与日数	取得日数	取得率	年間平均取得日数
3043日	1643日	54.2%	9.2日

⑤支援取得状況

育児目的休暇（配偶者出産）	1名	子の看護休暇	1名
育児目的休暇（子の育児休暇）	1名	子の結婚休暇	0名
特別休暇（病気休暇）	10名	正職員転換	1名
結婚休暇	0名	資格取得支援	1名

(3) 非営利法人にふさわしい透明性の高い運営をする

- ・令和2年12月、特別養護老人ホームについて書面による指導監査を受ける。指摘事項なく適切に運営されていることを確認いただく。
- ・コンプライアンスの徹底に関して、例年の取り組みに増してコロナ禍における社会的ルール、モラルの遵守について繰り返し職員に注意をうながした。
- ・コロナ禍における面会制限等、閉鎖的な環境により虐待等を疑われることのないよう家族との情報共有の仕方や介護提供時の職員の態度、言葉遣い等について通常以上に気を配るよう、委員会が中心となり注意喚起した。

(4) 地域包括ケアの中心的な役割を担い、公益的な事業を率先して行う

- ・高齢者支援センター（委託型地域包括支援センター）は、今年度から担当地域の高齢者人口増加に伴い3職種職員（社会福祉士・保健師・主任介護支援専門員）が配置基準上1人増員の5人体制となる。年度初めは感染対策により計画通り取り組みを進められなかったが、その間は地域住民に対する情報発信に力を入れた。

2. 特別養護老人ホーム福寿草

(1) 介護

- ・感染症対策のための標準予防策も徹底できている。感染症対策委員会が中心となり研修の実施や訓練も行われた。
- ・ノーリフティングケアについては、標準的介護として定着してきている。新たな移乗機器や立ち上がり補助機も導入され、身体状況に応じた安全な対応ができている。また、指導者による技術指導も行われている。
- ・テクノロジーの活用として、転倒、転落防止等に向け、見守りセンサー（ベット内蔵センサー・遠隔での行動確認センサー）が導入され、利用者の安全と職員の負担軽減に繋がっている。
- ・感染症の影響により施設行事や活動機会が例年より減少した。個別的に配信動画等で、好きな音楽や動画鑑賞を勧め入所者も楽しまれていた。重度者に対しては離床機会を作りながらアロマセラピーやオイルマッサージ等を実施できた。個別リハについても、機能訓練指導員と連携し、マッサージや関節運動も多く実施できた。次年度は感染対策に留意しながら活動機会を増やすよう取り組む必要がある。

(2) 看護

- ・日々の健康管理を介護と連携し、変化時の早期対応に繋がった。昨年度より入院者の延べ人数が19名減となった。状態低下がみられる方に対し適時家族へ状態説明を行い、多職種で連携し家族の意向に沿った看護（可能な範囲での施設での対応や栄養摂取方法の切り替えなど）ができた。
- ・嘱託医の指示の下、適切な終末期ケアに繋げ、17名の看取りを行った。

- ・嘱託医指示の下、感染防止委員会と連携した感染症対策を行い、施設内の感染症まん延を防ぐことができた。

(3) 栄養管理

- ・全体の食事サービスでは、感染症対策の中でも「季節感」「お祝い」「行事」等が食事から印象付けられ、楽しんで頂ける様に献立の配慮に努めた。また、個別対応としてミールラウンドを強化し、意向の確認や状況の変化（摂取量減少、嚥下機能低下等）に早期に気づき、多職種で見直しを行い対応に努めた。

3. 福寿草ショートステイ

- ・サービス提供が継続できるように在宅での様子確認や同居家族の状況確認を徹底し、感染対策に努めた。
- ・利用者、家族ニーズに応じた健康管理、機能維持のためのサービス提供に努めた。
- ・重度者の利用ニーズに応えるため、多職種で協議、担当ケアマネ等と様々な調整をして受け入れを行った。

4. ケアプラザ福寿草

(1) デイサービスセンター福寿草

- ・7月より新施設となり新規利用問い合わせは増加したが、全国的に新型コロナウイルス感染症が拡大したことにより利用者数は減少した。
- ・コロナ禍で外出機会が減っている利用者が身体機能を維持して在宅生活を維持できるよう、生活環境に合わせた機能訓練を実施した。
- ・新施設の環境は、職員の動線がスムーズになったことで働きやすくなり、効率的に業務を進めることが出来ている。

(2) 認知症対応型デイサービスセンターかりん

- ・利用者個々の認知症状に対する最善の対応を認知症委員会と随時話し合い、寄り添ったケアを実践した。また新施設となり、環境面でも広々とした空間で穏やかに過ごしていただいております、認知症が大きく進行せずに在宅生活を維持できている。
- ・感染防止の為、例年通りの世代間交流はできなかったが、地域小学校への雑巾寄付は職員が学校に届け、利用者の思いを伝えることで地域とのつながりを持てた。

(3) 福寿草ヘルパーステーション

- ・入院や施設入所など終了者はあったがその都度新規受け入れができ、登録者数は維持できた。
- ・在宅でのケア時もノーリフティングケアを意識し、重度者へのサービス提供時にはスライディングシートを活用し、利用者及び職員双方の負担軽減に努めた。

- ・昨年同様、要支援及び事業対象者の依頼は増えており、軽度者の自立支援が必要な状況がある。

(4) 福寿草居宅介護支援センター

- ・終了件数が昨年度より 11 件多い 50 件であった。中でも医療依存度の高い方が自宅で看取るケースが増えており、医療機関との連携を強め支援を行った。
- ・困窮や虐待など支援困難ケースも多く、高齢者支援センター職員と連携して切れ目のない支援に努めた。

5. ケアプラザさざなみ

(1) デイサービスセンターさざなみ

- ・ノーリフティングケアを実践するために福祉用具の正しい操作・使用方法の研修を行ない、利用者の状態に合わせた介助に努めた。
- ・新型コロナウイルスの流行により利用者の減少がみられたが、事業所で行っている感染対策やレクリエーションの工夫等を関連事業所に伝えながら実績の回復を図っている。

(2) ショートステイさざなみ

- ・利用者が安心して快適に過ごしていただくために、ノーリフティングケアを一層推進し、介助方法の見直しや環境整備を行った。
- ・楽しめる活動の工夫として、感染対策を徹底しながら映像を使用して県内外・国外へ外出した気分を味わっていただき、重度の利用者に対しても足浴やアロマオイルを使用したマッサージでリラックスできる時間を持った。

(3) ヘルパーステーションさざなみ

- ・感染症に対応するための体制を整え、必要がある時は各居宅介護支援事業所と十分に連携し検討を行いながら、感染対策を徹底してサービスを継続した。
- ・取得している加算の要件である各ヘルパーごとの研修の実施や、毎月の会議の開催が職員の資質の向上につながった。

(4) 居宅介護支援センターさざなみ

- ・コロナ禍にあって介護事業所の見学ができない状況があったため、サービスの種類や特徴が分かる資料を作成し、迅速なサービスの選択をサポートした。
- ・上半期は行政からの利用者宅への訪問自粛の求めに応じ記録の整備に努めた。訪問が再開された下半期は優先順位に応じた記録と訪問業務を行った。

(2) 理事会・評議員会の開催状況

(令和2年4月1日～令和3年3月31日)

① 理事会

開催年月日	会議(出席)	審議内容
令和2年6月1日	第1回定時理事会 決議省略 (理事 9名) (監事 2名)	1. 令和元年度事業報告について 2. 令和元年度決算報告について 3. 資産総額変更登記について 4. 定時評議員会の開催について 5. 理事長の職務の執行状況の報告
令和2年11月26日	第2回定時理事会 決議省略 (理事 9名) (監事 2名)	1. 令和2年度一次補正予算(案)について 2. 令和2年度上半期事業計画自己評価について 3. 理事長の職務の執行状況の報告
令和3年2月11日	臨時理事会 決議省略 (理事 9名) (監事 2名)	1. 福寿草建替工事の追加工事に係る変更契約について 2. 福寿草建替工事の完成について(報告)
令和3年2月22日	臨時理事会 決議種略 (理事 9名) (監事 2名)	1. 基本財産となる土地地目の変更について
令和3年3月17日	第3回定時理事会 決議省略 (理事 9名) (監事 2名)	1. 令和2年度最終補正予算(案)について 2. 令和3年度事業計画(案)について 3. 令和3年度当初予算(案)について 4. 就業規則等の変更(案)について 5. 経理規程の変更(案)について 6. 施設の建替え移転に伴う定款第30条の基本財産の変更について 7. 評議員選任・解任委員会運営細則の変更について 8. 決議の省略による臨時評議員会の開催について 9. 理事長の職務執行状況の報告

② 評議員会

開催年月日	会議(出席)	審議内容
令和2年6月17日	定時評議員会 決議省略 (評議員 10名)	1. 令和元年度事業報告について 2. 令和元年度決算報告について 3. 資産総額変更登記について
令和3年3月25日	臨時評議員会 決議省略 (評議員 10名)	1. 施設建替えに伴う定款第30条の基本財産の変更について

(3) その他

①福寿草建替工事関連

令和2年6月1日

- ・福寿草建替工事による新施設の仮使用が認定される。

令和2年6月19日

- ・「特別養護老人ホーム福寿草医務室」（昭和52年4月1日許可）について開設許可事項変更を許可される。八戸市保健指令第225号。

令和2年7月1日

- ・新施設での事業を開始する。
- ・新規介護保険事業所指定
特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設）「福寿草インスプリング」
（ユニット型特養定員42名、ユニット型短期入所10名）
介護保険事業所番号0270304124
- ・既設の特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設）「福寿草インスプリング」
定員変更（従来型特養定員90名から48名、従来型短期入所22名から12名）
介護保険事業所番号0270300486

令和2年12月28日

- ・新施設の竣工引き渡しを受ける。

令和3年1月29日

- ・新施設の建物表題登記 家屋番号 6番19

令和3年2月10日

- ・新施設の所有権保存登記 家屋番号 6番19号 老人福祉施設
鉄骨造陸屋根2階建 1階 3144.13㎡
2階 2784.97㎡

令和3年2月26日

- ・八戸市より「平成31年度八戸市特別養護老人ホーム整備費補助金」として438,750,000円の交付を受ける。

令和3年3月11日

- ・新施設を抵当権設定(追加) (抵当権者 独立行政法人福祉医療機構)
(借入金総額 11億6千万円 30年返済)

②定款変更

令和2年2月5日

- ・定款第31条(基本財産の処分)の変更 八戸市指令第850号

(4) 職員に関すること

①健康管理の実施

実施日	実施回数（実施期間）	対象者
総合健診	・年 1回（4月～6月）	・夜勤対応職員
	・年 1回（10月～1月）	・全職員
がん検診	・年 1～2回（4月～3月）	・各種検査対象年齢者 ・各種検査希望者
腰痛検査	・年 2回（6月・10月）	・全職員
便検査	・年 12回（4月～3月）	・調理職員
インフルエンザ予防接種	・年 1回（11月）	・全職員
ストレスチェック	・年 1回（11月）	・全職員

(5) 施設の管理に関すること

務種別	実施月	内容	実施業者
自家用電気工作物 保守点検	偶数月 ／年6回	電気設備の保守管理と不良箇所の発見	電気保安協会
自家用電気工作物 年次点検	4月	各電気設備の抵抗測定	電気保安協会
浄化槽保守点検	月1回	浄化槽・ばっき装置・排水点検 水質検査等	(株)清掃テクノ サービス
消防用設備等点検	11月	消防設備の総合点検	サトー防災
受水槽掃除	5月	受水槽の点検と槽内外の掃除	伊藤商事
レジオネラ菌 水質検査	12月	飲料水水質基準適合検査	総合技術管理(有)
し尿浄化槽 法定検査	11月	浄化槽7号検査による法定検査	青森県浄化槽 検査センター
昇降機及び小荷物専 用昇降機法定点検	6月 新規設置	建築基準法第12号第2項の規定 による定期点検	日立ビルシステム
簡易専用水道検査	9月	水道法第34条の2第2項に基づく 検査	青森県薬剤師会 衛生検査センター

(6) 防災・防犯に関すること

実施日	訓練内容
4月22日	・ 消防設備についての説明（新人職員対象）
10月15日	・ 日中想定避難訓練 （訓練前に事務員・調理員に車椅子操作指導）
	・ 地震防災訓練 （全職員対象：停電時の非常用発電機作動訓練）
2月28日	・ 日中、夜間防災対策マニュアル検証
3月8日	・ 夜間想定避難訓練 （訓練前に事務員・調理員に車椅子操作指導）
3月25日	・ 防犯・不審者対策について講習
毎月末	・ 消防設備等、自主点検

令和2年度

特別養護老人ホーム
福寿草
事業報告

【特別養護老人ホーム福寿草 事業報告】

1. 重点目標の実施状況

(1) サービスの質の向上

- ・新型コロナウイルス等の対応強化を通年継続した。手洗い、消毒、換気等の感染症対策の標準予防策を継続しつつ、感染症対策委員会が中心となり研修や感染物処理等の訓練も行った。感染症に罹患する入所者も無かった。
- ・主任等が中心となり危機管理体制をとり、感染対策に必要な物品等の確保が適切に行われた。万一、感染症に罹患された方が出ても、十分対応できる物品の充足ができています。
- ・ノーリフティングケアについては、標準的介護として定着してきている。新たな移乗機器や立ち上がり補助機も導入され、身体状況に応じた安全な対応ができています。また、指導者による技術指導も行っている。
- ・テクノロジーの活用として、転倒、転落防止等に向け、見守りセンサー（ベット内蔵センサー・遠隔での行動確認センサー）が導入され、利用者の安全と職員の負担軽減に繋がっている。
- ・感染症の影響により施設行事や活動機会が例年より減少した。個別的に配信動画等で、好きな音楽や動画鑑賞を勧め入所者も楽しまれていた。重度者に対しては離床機会を作りながらアロマセラピーやオイルマッサージ等を実施できた。個別リハについても、機能訓練指導員と連携し、マッサージや関節運動も多く実施できた。次年度は感染対策に留意しながら活動機会を増やすよう取り組む必要がある。
- ・サービスの質の評価となる介護報酬における加算（褥瘡予防・栄養マネジメント・看取り加算等）を、適正なサービス提供のもと算定の継続ができた。
- ・食事摂取不良や体調不安定による状態低下がみられる方に対し、多職種で連携し家族の意向に沿った介護、看護ができた。日々の健康管理についても介護、看護で連携し、変化を見逃さず早期対応につなげることができた。
- ・適時、家族に対する状態説明をしっかりと行い、意向に合わせた介護サービス計画の立案、実施につなげ、安心して介護を受けられるよう努めた。定期的な評価時にも家族から高い満足度を得た。

(2) 職員の資質向上・人材確保、定着に向けた取り組み

- ・各種研修については感染対策から例年よりかなり少ない状況となった。そうした中でも委員会からの発信を強化し、感染対策についても厚労省・県・市からの発出情報をもとに研修等を行った。
- ・タブレット端末を活用した記録作成による業務負担軽減、福祉機器増台等の働きやすい職場づくりにより人材確保・定着もでき、良質で安定した介護サービス提供ができた。外部への発信については、ホームページで動画を用い、法人の取り組みに興味を持ってもらえるよう準備を進めた。

- ・人材確保について、介護福祉士養成校並びに生徒数の減少により獲得は厳しい状況であるが、実習受け入れの継続と丁寧な技術指導の継続により、実習希望者と就職希望者が増えてきている。（介護福祉士養成校の担当者より）
- ・新採用職員（中途採用含む）に対し年齢の近い指導担当者に定め、定期的な面談を行い、目標達成に向けたサポート、悩みごとなどの相談にも対応しながら育成を進めた。他職員についても、個人目標をたて定期的に上司との面談を行い、目標達成ができるようサポートした。

（３）安定した介護報酬の確保

- ・特養の収益安定は、入院や退所による空床日数を抑えることが重要となる中、新型コロナウイルスの影響もあり、他事業所への事前入所調査が進まず、空床が長引く状況もあった。前年度より入院者減少もあり大きな収益減とならなかった。
- ・状態変化時は早期の病院受診により悪化防止につなげ入院を予防することができた。

（４）地域福祉の推進

- ・感染対策により毎年度実施していた、職場体験学習の受け入れや認知症について学べる機会（認知症サポーター養成講座）の開催ができなかった。次年度は感染対策に留意しながら開催に向け調整していく。
- ・町畑地区敬老会等、地域行事の運営協力についても行事中止によりできなかったが、次年度は必要に応じ協力を進めていく。

２．具体的な取り組み状況

（１）介 護

①入退所の状況 定員：ユニット42人、従来48人 計90人 (人)

項目		月												計
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
退所者	多床室	3	1	1	2	1	1	3	1	1	1	2	0	26
	ユニット				2	2	0	1	2	0	0	2	0	
入所者	従来	1	2	1	0	2	1	2	3	0	1	2	1	26
	ユニット				2	0	3	1	0	2	0	2	0	

平均在所期間 約4.5年

②退所者数の推移

令和2年度	令和元年度
26	19

③退所理由

	令和2年度	令和元年度
施設で看取る	17	16
長期入院	3	1
病院死亡	3	2
ユニットから従来への移動	3	

④年齢状況（令和3年3月31日現在）

男性：23人 女性：67人

年齢	男性(人)	女性(人)	割合(%)
65～69	0	1	1.1
70～74	5	2	7.8
75～79	5	7	13.3
80～84	6	12	20
85～89	3	25	31.1
90～94	2	13	16.7
95～99	2	6	8.9
100～	0	1	1.1

最小年齢	69.7歳	平均年齢 (全体)	85.6歳	男性	82.6歳
最高年齢	101.5歳			女性	86.7歳

⑤要介護度状況（令和3年3月31日現在）

※平均介護度 4.4

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
ユニット型	0人	0人	1人	22人	19人
従来型	0人	0人	2人	28人	18人

⑥基本的日常生活動作（ADL）状況（令和3年3月31日現在）

・移動状況

	歩行	車椅子	リクライニング型車椅子
ユニット型	0人	12人	30人
従来型	0人	14人	34人

・食事状況

	自立	半介助	全介助	経管栄養
ユニット型	13人	4人	8人	16人
従来型	10人	9人	13人	17人

・入浴状況

	座位式浴槽	特殊浴槽
ユニット型	1人	41人
従来型	5人	43人

・排泄状況

		トイレ	オムツ	留置カテーテル
日中	ユニット型	3人	39人	4人
	従来型	4人	44人	
夜間	ユニット型	0人	42人	2人
	従来型	0人	48人	

⑦医療処置状況

処 置 内 容		令和2年度	令和元年度
経管栄養	胃 瘻	7	5
	経 鼻	26	28
バルンカテーテル留置		6	8
膀胱洗浄		0	2
褥瘡処置（延べ）		3	2
1時間毎吸引（随時）		0	0
必要時吸引		18	18

⑧福祉機器の導入について

導入機器	効果	
◎電動介護リフト：1台増台 合計8台	入所者 <ul style="list-style-type: none"> ・介護者に勢いよく抱きかかえられる恐怖心がなくなる ・専用シートを活用することでベッド上移動時の皮膚摩擦が防止できる ・車椅子のフレームに下肢をぶつける等のリスクが軽減し安全面が向上 ・認知症によりナースコール活用が出来ない方の自発行動による転倒リスクを見守りにより軽減できる ・個々の身体状況に合わせた移乗やトイレ介助が確立される 	
◎電動リフター専用シート：1枚追加 合計39枚		
◎移乗介助用シート・ボード：11枚購入 合計17枚		
◎肘跳ね上げ式車椅子：0台購入 ※移乗用ボードなど福祉用具が 利用しやすくなる 合計20台		
◎体動等で反応するセンサーマット ※ベッド内蔵・座面センサー：12台購入 合計20台		職員 <ul style="list-style-type: none"> ・介護業務による身体的負担軽減につながっている ・移乗用ボードを活用することで、電動リフター以外でも負担なく移乗介助ができる ・夜間に人手が少ない時間帯でもセンサー反応による対応ができるので事故による精神的負担の軽減につながる ・負担なくトイレ介助が行え、安全なケアに繋がっている
◎徘徊センサー：0台購入 合計1台		
◎ロボヘルパーSASUKE：1台購入 合計1台		
◎スカイリフト：1台購入 合計1台		

⑨諸活動について

・主な施設行事及び訪問

4月	創立記念	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍においても感染症対策を講じながら季節を感じていただける行事を行った ・各行事において、華やかなお祝い膳や旬が感じられるお膳など、普段食事を共にしている方々と楽しみの一つである食事を通し楽しんでいただいた ・ユニット型及び従来型それぞれの環境の中、さりげない装飾で季節を感じていただく工夫を行った
	お花見食事会	
9月	敬老会	
12月	クリスマス・忘年会食事会	
	年末年始行事	
1月		
3月	ひな祭り食事会	

・諸活動実施状況

	活動項目	活動日数
	レクリエーション(運動レクなど)	ユニット型：17 従来型：4
	おやつ喫茶	21
	茶話会	3
	グループワーク(バルンアート・塗絵など)	ユニット型：4 従来型：9
<ul style="list-style-type: none"> ・アロマ・リラクゼーションマッサージ等は日常的なケアとして実施 ・外部からの訪問や外出支援等については感染症対策の観点から自粛 		

⑩家族との連携について

一ヶ月の平均面会回数(一人当たり)	ユニット型	0.6回
	従来型	0.25回
<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策の観点から、オンラインでの面会を基本とした ・少人数、短時間での面会の中、日常生活や援助方法等の様子を動画で見てくださいなど、直接会えない中でも伝え方の工夫を行った ・感染症対策や施設内の状況報告は随時文書でお知らせし、写真を用いた“福寿草通信”などでも施設内の様子を知っていただく機会とした 		

(2) 看護

①健康管理に関すること

・診療及び入院状況(述べ人数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	令和2年度 合計	令和元年度 合計
通院	25	22	27	76	69	26	21	29	30	23	23	17	388	477
往診	0	0	14	20	18	20	24	0	0	1	0	30	127	330
入院	2	14	71	85	1	17	0	13	0	34	17	0	254	273

・入院時の主な病名

	肺炎 ・ 誤嚥性 肺炎	尿路感染 ・ 腎盂腎炎	脳梗塞	心不全	気管支炎	蜂窩織炎	その他
令和2年度	5	0	0	0	0	0	10
令和元年度	2	2	3	0	0	0	8

・入院者の統計

入院者	令和2年度	元年度
延べ人数	254人	273人
1日平均	0.6人	0.7人
入院者が0人の日数	219日	170日

②看取りについて事前確認状況 令和3年3月31日現在

自宅に戻り最期を迎えたい	2人	今は分からない	18人
施設で最期を迎えたい	69人	(未確認)	0人
入院を希望する	1人		

(3) 栄 養

①食事サービスについて

・行事食等実施状況

(回数)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
行事食	2	0	1	2	0	1	1	0	2	2	1	1	13
選択食	2	2	2	0	1	2	2	2	2	2	2	2	21
おやつ喫茶	2	2	2	0	1	2	2	2	2	3	1	2	21

②茶話会の開催

月	人数	主な内容と意向
5	11人	【食事全般・生活全般の意向確認】 ・便秘気味なので水分を多く取りたい → 意向確認した上でお粥に変更する
10	13人	・もう少し副食を増やして欲しい → 副食を1/4増量する
3	9人	・外食やドライブなどを楽しみたい → 感染症対策の説明をしつつ次年度の状況を見ながら計画していくことで理解いただく

③入所者の食事形態 [R3 3/31]

〔主 食〕

食事形態 \ 年度	2 年度
食事提供人数	5 6
やわらか御飯	9
全 粥	3 1
全 粥 (ゼリー状)	0
全 粥 ミキサー	1 6
その他	0

〔副 食〕

食事形態 \ 年度	2 年度
食事提供人数	5 6
やわらか常食	0
刻み(一口大)	1 2
刻み(極刻み)	2 8
ミキサー	1 6
その他	0

(4) 相 談

・家族との面談やサービス担当者会議の開催実績

件数	内容
13 件	<ul style="list-style-type: none"> ・食事量の低下や状態変化をきっかけに、多職種で現状を判断し医師の見解を受けた上で、家族との面談を持った ・対応決定後も都度家族への状態説明と意向の再確認をし、双方の見解に相違がないよう努めた ・家族と医師の面談の機会を持ち、より家族の理解と安心に繋がっている。

・入所者の苦情及び要望

	苦情	要望
件数	1 件	0 件
	<ul style="list-style-type: none"> ・入所者の状態報告において誤解を招いたことで改善を求められた ・報告内容を事前に整備した上で報告に臨む体制を構築し、リーダー指導の下での適切な対応に向けた ・家族への誠実な対応が随時できるよう、関連委員会による施設内研修を実施した ・日常の中での家族への報告や意向確認の中から、生活に対する小さな要望をくみ取り、早い段階で対応するよう継続的に努めている 	
第三者委員の 関与	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍においては、市内の感染状況を見ながら訪問いただき、オンラインで施設の様子を伝えたり、入所者の方の声を拾っていただいた ・訪問時には入所者の様子や改善に取り組んでいる事項等の報告を行い、助言を得ている 	

・その他入所者家族との連絡調整 令和2年3月31日現在

連絡調整延べ件数	約 57 件
主な内容	<ul style="list-style-type: none"> ・申請等に関する問い合わせ及び調整 ・家族や医療機関との入院中の状態確認及び調整 ・連絡先の再確認や金銭管理及び支払いに関する調整 ・新施設の入所居室やサービスに関する問い合わせ及び経済面における相談

・入所相談 令和3年3月31日現在 (件)

総申し込み件数	年度内の申し込み 件数	随時の相談件数 (待機状況の確認、 近況報告等)
659	98 (月平均 8件)	約46件

・介護度別待機者 令和3年3月31日現在 (人)

要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	不明
36	104	230	157	117	15

(5) 地域連携

・実習及び訪問等の受け入れ状況

	延べ日数	延べ人数	平均人数
研修・実習生 〔 八戸学院大学短期大学部 〕 介護福祉学科	35	71	2 (前年度2.1)
訪問・奉仕	0	0	0 (前年度1.7)

※感染症対策のため訪問、奉仕の受け入れ実績なし

・主な地域貢献活動・交流

※令和2年度については新型コロナウイルス感染症の流行に伴い実施なし

【福寿草ショートステイ 事業報告】

1. 重点目標の実施状況

(1) サービスの質の向上

- ・感染対策強化のため食事場所の亚克力板設置やソーシャルディスタンスの確保に努めた。
- ・感染症蔓延によりショートステイサービス利用停止とならないよう、利用前や利用中の体調確認をしっかりと行い、必要に応じ隔離や在宅療養で感染対策徹底を行った。
- ・利用者の状態把握に努めた上で利用者、家族のニーズに応じた健康管理、機能維持のためのサービス提供に努めた。
- ・7月から開設されたユニット型、従来型ショートステイとも過ごしやすい環境整備に努め、利用者からも満足しているとの評価を多く得た。
- ・個々に応じた余暇時間の過ごし方を提供し、自己選択の下での支援に努めた。
- ・重度者の利用ニーズに対しては、多職種での協議や担当ケアマネ等と様々な調整をした上で受け入れをすすめた。

(2) 職員の資質の向上

- ・受け入れ調整担当以外でも日常的に家族や関係事業所との連絡調整、サービス担当者会議への出席、新規利用者の状態確認のための調査の機会を作った。また、サービス開始時の重要事項説明も行い、重要事項を基本としたサービス提供がしっかりできるよう努めた。
- ・専任スタッフから認知症ケア委員長を選任し、認知症介護のスキルアップについての研修、情報発信を行い、ショートステイ内でも活かされるよう取り組んだ。

(3) 安定した介護報酬の確保

- ・新型コロナウイルスの影響もあってか利用を控える傾向もあり、例年の稼働を維持することが難しかった。また、入院や施設入所による利用予定のキャンセルもあり稼働低下があった。対策として各居宅支援事業所への空床案内のお知らせと市内に限定せず空床のお知らせを行い、サービスニーズに応えられるよう進めていく必要がある。

2. 具体的な取り組み状況

(1) 利用実人数

(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均	合計
ユニット型				47	56	50	59	59	53	52	37	38	50	451
従来型	68	67	101	54	56	58	58	57	56	52	40	42	47	422

(2) 延べ利用者人数 (人)

延べ利用人数	月平均人数
8,534	711

(3) 要介護度状況 平均介護度 3.3

要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
5.7%	22.6%	30.4%	25%	16.3%

【研修の報告】

(1) 施設内研修

月 日	研 修 名	参加人数
4	資料研修 「社会福祉施設等における感染拡大防止のための留意点について(その2)」 「人との接触を8割減らす10のポイント」について	全職員
5	複数日 「感染を予測したシミュレーション ～吐物処理～」	90名
	資料研修 「新たな生活様式」について ～基本的感染対策と基本的生活様式～	全職員
6	1～14 「介護のリスクマネジメントの基礎知識と事故発生時の対応と家族対応について」	各部署資料揭示
	20. 24. 25. 26 「ポジショニング・除圧についての研修会」	5名 新任職員 2年目職員
	資料研修 新型コロナウイルス感染予防対策実践マニュアルの周知	全職員
7	15～30 ◎階層別研修(初級階層) 「社会人としての接遇マナー」	14名
	資料研修 「高齢者施設における新型コロナウイルス感染症発生に備えた対応等について」～八戸地区介護保険事業者協会役員会より～	全職員
8	20～25 ◎階層別研修(中級業務者) 「接遇について～自分達に足りていない事を考える」	6名
	24、26 「感染を予測したシミュレーション ～吐物処理とガウンテクニック～」	5名 新人階層職員
	動画研修 「介護職員のためのそうだったのか！感染症対策！」	リーダー階層 職員
9	10～17 「身体拘束に関して(フィジカルロックとは何か、自職場においての現状)」	各部署資料揭示
	15～25 ◎階層別研修(専門業務職) 「アサーションの必要性を考える」	23名
	資料研修 新型コロナウイルス感染予防対策マニュアルより清掃及びごみ処理について	全職員
10	1～7 コロナ禍における介護施設内での虐待の現状、対応について	各部署資料揭示
	1 「認知症の基礎知識」看護研修	各部署資料揭示
	6. 7. 10 「避難担架取り扱い研修会」	30名
	26 ◎階層別研修(上級業務者) 「パワーハラスメントについて～就業規則に準ずる違反行為の再確認」	6名

	29	◎階層別研修（指導・監督業務者） 「パワーハラスメントについて～就業規則に準ずる違反行為の再確認」	9名
	29～31	「認知症の理解」	各部署資料揭示
	30～11/5	「オムツの正式な当て方について 白十字からの動画で研修」	48名
	複数日	「個人情報保護の重要性」 ～新型コロナウイルスの情報管理～	全職員
11	1	「看取りケアの理解」	各部署資料揭示
	7～15	「苦情、相談、要望の対応マニュアルについて」 「サービス提供上の留意点と苦情対応のポイントについて」	各部署資料揭示
	10～15	◎階層別研修（初級業務者） アサーティブコミュニケーション研修	14名
	資料研修	陽性者確認時の初動マニュアル及びゾーニングについて ～感染症対策合同研修会より～	全職員
12	10	コロナ感染対策ガウンテクニックについて実践研修	48名
	15～20	◎階層別研修（中級業務者） 「アサーション」「心の知能指数 EQ」を活用したコミュニケーション研修	6名
	資料研修	「新型コロナウイルス対応事業継続計画の理解」	全職員
	28～1/15	介護サービス従事者向けの感染対策に関する研修 オンライン	94名
1	26～31	◎階層別研修（上級業務者） 「アイコンシャスバイヤスについて」	6名
2	22～28	「身体拘束廃止未実施減算に関してと福寿草の現状について」	各部署資料揭示
	資料研修	新型コロナウイルス発症時のマニュアルの理解	全職員
3	19	◎階層別研修（専門業務者） 「アイコンシャスバイヤスについて」	23名
		「家族の思い 認知症とともにある地域づくりを」	各部署資料揭示
	23	コロナ禍での看取りケア	各部署資料揭示
	26	さすまたに使用方法について	各部署資料揭示
	29	◎階層別研修（指導・監督者） 「アイコンシャスバイヤスについて」	9名

◎年間を通した研修

- ・「1ヶ月の到達目標に即した評価と今後の課題
～新任者への1週間ごとの振り返りとアドバイス～
- ・3ヶ月毎の自己評価と今後の課題 ～新任者とエルダー職員との面談～
- ・認知症介護実践者研修修了者による認知症ケアの技術指導（毎月）

(2) 施設外研修

月 日	研 修 名	会 場	参加人数	
6	27	感染対策セミナー新型コロナウイルス感染症について	八戸市	1名
	29～30	ノーリフティングケア ミニマネジメント指導講習	青森市	1名
7	13～15	ノーリフティングケア 総合マネジメント研修	青森市	1名
	7. 14. 21. 28	臨床栄養学講師	八戸市	1名
8	10～12	ノーリフティングケア 総合マネジメント研修	青森市	1名
	25	臨床栄養学講師	八戸市	1名
	31～9/4	令和2年度青森県認知症介護実践研修講義、演習	八戸市	1名
9	1. 8. 15	臨床栄養学講師	八戸市	1名
	9～10	青森県災害福祉支援チーム員登録時研修	青森市	1名
	15	ノーリフティングケア 総合マネジメント研修	青森市	1名
	7～10/4	令和2年度青森県認知症介護実践研修職場実習	八戸市	1名
10	26	令和2年度整備管理者講習会	八戸市	1名
	28	令和2年度感染症対策合同研修会	八戸市	3名
11	13	令和2年度青森県認知症介護実践研修 報告会	八戸市	1名
	19	安全運転管理者講習会	三沢市	1名
	30	メンター研修会	八戸市	1名
12	1	令和2年度第一回研修委員会	青森市	1名
1	20	ノーリフティングケア リーダー研修	青森市	1名
	27	外国人介護人材受け入れ準備セミナー	八戸市	1名
	29	感染拡大させない介護・福祉施設でのゾーニングのすすめ	オン ライン	2名
2	28	高齢者虐待防止研修	オン ライン	2名

令和2年度
ケアプラザ福寿草
事業報告

【福寿草デイサービスセンター及び

総合事業デイサービスセンター福寿草 事業報告】

1. 重点目標の実施状況

(1) サービスの質の向上

- ・利用者個々の身体状況に合わせた福祉機器や用具を使用しノーリフティングケアを実践した。介護における事故が減少し、利用者、職員双方の負担軽減となっている。
- ・感染予防のため対面での担当者会議の開催は少なかったが、電話や書面などで、本人、家族、多職種との情報共有に努め、自宅での生活行為を把握し在宅生活に必要な機能訓練を効果的に実施できた。
- ・安全な送迎業務が行えるよう、出発前の体調確認、点呼、コース確認を徹底し事故防止に努めた。

(2) 職員の資質向上

- ・所属部署と個人の目標を明確にすることで、個別の目標達成だけでなく事業所の重点課題を意識して業務に前向きに取り組み、相談し合える環境が出来ている。
- ・職員個々のワークライフバランスに合った働き方ができるよう法人の各制度を周知し、申請しやすい環境作りに努め、お互いを支え協力し合う環境を醸成している。
- ・記録業務を見直し効率化を図りながらも、統一事項に不備がないよう申し送りの徹底を強化した。その他時間外業務事前申請は定着しており、計画的に業務を実施することで時間外業務削減につながった。

(3) 安定した介護報酬の確保

- ・各居宅介護支援事業所に対し空き情報を定期的にお知らせし新規利用者を受け入れた。コロナ感染症の影響で稼働率は伸び悩み目標予算を下回った。
- ・新施設になり臥床したままで入浴できる特殊浴槽が完備され、重度者の受け入れ窓口を広げたことで問い合わせは増えている。
- ・在宅介護の状況に合わせ、時間帯の変更や利用日移動の希望には柔軟に対応した。

2. 具体的な取り組み状況

(1) 月別延べ人員

介護型	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和2年度	590	592	606	628	656	660	706	634	627	542	301	621	7,163

予防型	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和2度	75	83	85	79	78	92	89	69	77	80	46	86	939

予防+介護	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和2度	665	675	691	707	734	752	795	703	704	622	347	707	8,102

(2) 年間行事について (一般型・認知症対応型合同)

4月	お花見ドライブ	ご自宅へお送りするコースで、東霊園や八戸公園などの桜の名所を通り春の訪れを楽しんだ。
9月	敬老会	園児や歌謡ショーの訪問などは控え、終戦からの思い出映像を作成し放映した。子供時代や若かりし頃の思い出に浸り涙する利用者もおり、良い敬老会となった。
10月	作品展示会	春から作り始めた個人作品が徐々に完成し、デイサービスフロアに展示。次回作品作りの意欲につながっている。
12月	利用者忘年会	一年の締めくくりとして楽しい催しを企画し、共に時間を忘れて楽しむ事ができた。豪華な食事に舌鼓をうった。
1月	お正月レク	温かい甘酒を味わいながら新年を祝う。「お正月クイズ」を行い笑いの多いお正月となった。希望者は書き初めも行なった。
3月	ひな祭り喫茶	ひな壇を飾り、桜のロールケーキを味わった。
適宜	外出レクリエーション	茶居花にパンを買いに行きたいという希望があり、個別で対応し買い物を楽しんだ。

【認知症対応型デイサービスセンターかりん及び

介護予防認知症対応型福寿草デイサービスセンターかりん 事業報告】

1. 重点目標の実施状況

(1) サービスの質の向上

- ・利用者個々の認知症状に対する効果的な対応（帰宅欲求の強い方や徘徊のある方に対し、利用者の行動を抑制することなく寄り添い居心地の良い環境を整備する等）を標準化した。さらに不適切なケアを防ぐことを意識し、毎日の申し送りでその日のケア内容を報告し合いサービスの質の向上につなげた。
- ・車いす使用の方の移乗時には移乗ボードを活用し、利用者介助者双方の負担軽減につながっている。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響で、例年通りの地域学校との世代間交流はできなかったが、旭ヶ丘小学校に寄付するための雑巾を作り職員が届けることで、地域とのつながりを持ち、利用者の励みともなった。

(2) 職員の資質の向上

- ・コロナ禍により外部研修への参加はなかったが、認知症介護の質の向上に向け認知症実践者研修修了者を中心に施設内研修を4回開催し、チームの成長と自信につながった。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響で（本人もしくは家族が、やむを得ず県外往来した場合や濃厚接触者となった場合など）数名が出勤できない期間があったが、職員間で協力し合い業務継続できた。
- ・タブレット入力に慣れ、記録に要する時間が短くなり作業効率が向上し、時間外労働が減少した。

(3) 安定した介護報酬の確保

- ・各居宅介護支援事業所に空き情報を定期的にお知らせしたが、新規問い合わせが少なかった。また市内でコロナ感染者発生後一定期間お休みする方があり介護報酬は減少した。
- ・利用者だけでなく介護者である家族への支援に留意し、家族の所用などに合わせて曜日変更や時間延長の希望に柔軟に対応した。

2. 具体的な取り組み状況

(1) 月別延べ人員

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和2年度	251	269	288	270	271	278	290	244	260	253	128	264	3,066

(2) 外出レクリエーションや世代交流

<一般型デイサービスセンターとの合同年間行事以外の活動>

1月	旭ヶ丘小学校に 雑巾寄付	コロナ感染予防のため利用者が直接訪問することはできなかったが、「子供たちのために」という思いでコツコツ縫った雑巾 100枚を職員が届け、大変喜ばれた。
7月	千羽鶴作成	毎年恒例、光星学院高校野球部に寄贈する千羽鶴を作成した。コロナ感染拡大の影響により春夏の甲子園が中止となりお渡しすることはできなかった。
10月	作品展示会	日々の作業で完成した作品を、デイサービスフロアに展示した。次回作品作りの意欲につながっている。

【福寿草ヘルパーステーション及び

日常生活支援総合事業ヘルパーステーション 事業報告】

1. 重点課題の実施状況

(1) サービスの質の向上

- ・サービス終了後の報告・相談を密に行い、利用者の思いと在宅介護の状況に配慮したケアとなるよう努めた。課題点を家族や担当ケアマネジャーと協議したことで満足していただけるサービスを提供できた。
- ・スライディングシートを訪問先に持参し活用したことにより、利用者・職員双方の負担軽減につながり安全安楽に援助することができた。
- ・訪問先までの道路状況や訪問先の駐車場の状況に合わせて移動時間を予測し、焦りによる事故を防止した。

(2) 職員の資質の向上と育成

- ・定期的面談の他に、すぐに相談できる風通しのよい環境とすることで適切なアドバイスができ、目標管理シートに記入したチーム目標と個人目標の達成につながった。
- ・ヘルパーを特定して訪問するケースをなくしサービス内容を統一したことで、急な勤務変更や年休取得もスムーズであった。
- ・勤務時間内に記録業務を行えるよう訪問時間を調整することで時間外労働削減につながった。

(3) 安定した介護報酬の確保

- ・要支援及び事業対象者の問い合わせが多くあり総合事業の延べ利用者数が増加した。それに対し要介護者は、コロナ感染拡大の影響によりキャンセルが増え収益は減少した。
- ・収益の増加に向け単位数の高い身体介護の割合 60%以上を目標とした。生活動作を利用者と共に行い自立支援する混合援助（身体介護＋生活援助）の割合が増え、全体で身体介護の割合が 70%となり目標を達成できた。

2. 具体的な取り組み状況

(1) 目標達成状況

	介 護		総合事業（予防・事業対象者）	
	目標数	結果	目標数	結果
実人員	25～30人以上	29人	9～10人	12人
1日利用者数	8人～10人	7人	1人～2人	3人
1ヶ月延べ利用者数	150人～160人	143人	27人～30人	53人
年間延べ人員	1,800人	1,715人	320人	637人

※介護の実人員は維持できたが、実人員1人当たりの訪問回数が減ったことにより延べ人員は達成できなかった。

※高齢者支援センターからの受け入れもあり、総合事業の利用者が多く目標数を大きく上回った。

(2) 型別年間延べ利用者数

	予防	身体介護	身体+生活	生活援助	合計
令和2年度	637	947	598	170	2,352
令和元年度	545	716	905	123	2,289

※要介護1～2の軽度者の割合は約30%、介護度3～5の中重度者の割合は約70%であった。軽度者の方でも、身体状況によりできない部分を共に行う自立支援も多くあり、身体介護60%以上という目標を達成できた。

【福寿草居宅介護支援センター 事業報告】

1. 重点目標の実施状況

(1) 居宅介護支援サービスの質の向上

- ・ 独居や認知症、医療依存度の高い高齢者も積極的に受け入れ、高齢者支援センター、医療機関などと連携し支援を行った。週1回の居宅会議により利用者の情報を共有し状況を把握していたことで、緊急で対応を求められた場合でも随時対応できた。
- ・ 主任ケアマネジャーによるケアプラン点検を行い、計画書の適正化及びサービス提供内容や頻度も適正であるか随時協議し、質の高いプランニングに努めた。

(2) 介護支援専門員の資質向上と育成

- ・ コロナ感染拡大により外部研修中止が続いたが、オンラインで参加できる環境を整備し下半期は受講できた。また、各ケアマネジャーの年間目標に則してテーマを決め、年間25回に及ぶ施設内研修を実施し資質向上に取り組んだ。
- ・ 利用者の生活課題を明確にすることを意識しケアプランに盛り込んだことで、目標設定を解りやすく示すことができ、自立支援に即した個別性の高い計画とした。
- ・ ケアマネジャーそれぞれが、行動予定通りに訪問や記録をするよう意識して業務の効率化を図り、時間外労働を削減した。また、介護休暇や病気休暇を取得した職員がいたがワークライフバランスを保ちながら働き続けることが出来た。

(3) 利用者数の適正と安定

- ・ 施設入所等による終了を予測して利用者人数を調整したが、新規利用者受け入れ年間39件に比べ死亡や施設入所による終了者が多く、月平均138件という目標に届かなかった。要支援利用者（事業対象者含む）の相談は昨年度よりも増加し高齢者支援センターと連携して対応した。
- ・ 毎月特定事業所加算算定要件を確認し、年間を通して加算算定を継続することができた。

2. 具体的な取り組み状況

(1) 要介護利用者人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
R 2	139	142	143	143	143	139	142	123	131	133	125	131	1634	136.1

(2) 要支援利用者（事業対象者含む）人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
R 2	12	10	11	12	10	12	12	11	12	14	12	14	142	11.8

(3) 要介護度別利用者数

	事業対象者	支援1	支援2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5
R 2	12	18	110	383	478	449	219	112

※中重度者（要介護3～5）の割合は、昨年度43%今年度44%とほぼ同等であった。

(4) 相談内訳（110件）

高齢者支援センター	本人家族	他事業所	医療機関
40%	38%	19%	3%

※相談件数は年間で91件。内訳は大館東地区高齢者支援センターからの紹介が最も多く、次いで利用者家族からとなっている。これは地域の相談窓口としての高齢者支援センター福寿草の役割が地域に浸透しているためといえる。独居や精神障害など多問題を抱えた困難ケースが多く今後も連携を強化していく。

(5) 終了者内訳（39件）

死亡	居宅変更	特養入所	長期入院	老健・有料	転居	小規模へ移行	サービス利用中止
30%	30%	14%	12%	6%	4%	2%	2%

※終了者は昨年度より11件多い50件であった。看取り時期を自宅で過ごされる方が入退院を繰り返す場合が多くあった。

【大館・東地区高齢者支援センター福寿草 事業報告】

1. 重点目標の実施状況

（1）地域での高齢者支援センターの浸透

- ・地域ケア会議個別会議（年4回開催）、介護予防ケアマネジメント支援、圏域内の居宅介護支援事業所との意見交換会（年1回開催）、また困難・虐待ケースの支援を通し、居宅介護支援事業所や介護事業所、医療機関などの関係機関、薬剤師や理学療法士などの専門職とネットワーク構築を図った。
- ・相談件数は年694件と昨年度より83件多く、一般、困難および虐待ケースともに、昨年度より相談件数が増えている。また、支援につながらず経過観察しているケースや家族問題が新たに浮上するなどし、同じケースから複数回相談を受ける場合も少なくない。
- ・実態把握訪問時にパンフレットを配布、不在の場合はポスティングしセンター周知を図り、状態に応じて総合事業サービスにつなぐなど、介護予防の推進を実施している
- ・薬局やスーパー、銀行、郵便局を訪問し、センターのパンフレット設置やポスター掲示を依頼し周知を図った。センターの活動紹介、消費者被害防止の啓発、介護予防に関することなどを掲載したセンター通信を年2回発行し、町内回覧を依頼した。

（2）民生委員、町内会との連携強化

- ・コロナ禍にて民児協定例会が開催されない時期や、出席を控えてほしいとの要望があり参加が少なかった地区もあった。また、高齢者サロンの開催も中止となり、地域密着型サービスの運営推進会議も書面でのやり取りがほとんどであったため、民生委員や町内関係者と情報交換する機会が昨年と比べ減少してしまっていたが、民生委員からは必要に応じて相談を受け情報共有した。
- ・今年度は高齢者サロンでの介護予防教室が開催できなかったため、町内単位での開催を試み3か所の町内で開催できた。町内での開催を通し町内会長や町内役員と話すことができ関係構築のきっかけとなった。野場町内や松館町内のサロンについては、今年度も開催し定着を図りたかったが、コロナ感染防止を考慮し開催しないとの町内の意向があった。介護予防教室は計10回で、目標回数である14回には届かなかった。
- ・認知症サポーター養成講座はコロナ禍のため開催できなかった。センター通信や介護予防教室で認知症予防の啓発に努めた。
- ・地域ケア会議個別会議に民生委員に参加していただいている。
- ・地域ケア会議圏域会議は2回開催し（町畑地区、旭ヶ丘地区）、連合町内会長や町内会長、社会福祉連絡会会長、民生委員に出席していただき意見交換した。

（3）職員の資質の向上と育成

- ・今年度はコロナウィルス感染拡大の影響により研修が少なく、昨年度に比べ研修を受ける機会が少なかった。下半期はオンライン研修が主流になったため、感染状況をみなが

ら虐待や成年後見制度、介護支援専門員に関わる研修などに出席し、専門性を高める知識や援助技術の自己研鑽に努めた。

- ・おおむね週 1 回ミーティングを実施し、相談内容や対応の共有、また必要時ケースカンファレンスを実施し支援について協議している。困難・虐待ケースの支援については、複数職員での支援対応を行い、関係機関とも連携し進めている。

2. 具体的な取り組み状況

(1) 相談総件数：694件（昨年より83件増加）

内訳

家族	本人	病院	民生委員	ケアマネ	行政	その他
33.2%	14.7%	15%	7%	8.4%	9.8%	11.9%

※相談者は昨年同様に家族が一番多く、次いで医療機関、本人、行政機関となっている。昨年度に比べ行政機関からの相談が増加しており、特に生活福祉課からの相談が多くあった。

※相談内容は多様化、複雑化しているケースもあり、またコロナ禍の影響で遠方に住む家族が帰省できず支援がスムーズに進まないケースもあった。相談内容内訳は介護保険や総合事業サービス関係（制度の内容、代行申請など）が26.8%と最も多く、次いで独居18.7%、認知症に関すること12.8%となっており、1つのケースに相談内容が複雑となる場合も多い。その他として身体面、家族、転院関係、訪問歴があるかなどの細かい相談も受けている。

(2) 実態把握（年間活動目標 300件）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実態把握	一般高齢者	18	9	5	11	31	20	11	15	13	18	9	10	170
	総合事業対象者	4	16	11	11	28	26	13	18	22	9	7	16	181
	基本チェックリスト未実施	2	0	1	0	6	0	3	3	0	0	0	3	18
困難・虐待ケース（延）		30	23	52	18	26	20	17	19	23	19	19	14	280

※実態把握年間 369 件と目標達成できた。

※昨年度までは基本チェックリストを実施できた人を件数に含めていたが、今年度より訪問して基本チェックリストの聴取できなかった方もカウントできるようになった。

※コロナウィルス感染防止対策のため4～5月までは実態把握を控えるように通達があり6月からの再開となったが、フェイスシールドは訪問時間の短縮など感染予防対策を講じ、その都度の感染状況をみながら実施した。

(3) 介護予防教室（年間目標数 14回）

町内名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
妙・妙団地						1	1	1					3
桜ヶ丘4丁目							1	1					2
寺分							1	1	1				3
旭ヶ丘地区							1	1					2
第2桜ヶ丘												1	1
他地区開催 （講師依頼）								1					1
計						1	4	5	1			1	12

※コロナウィルス感染防止対策のため8月まで自粛。9月より介護予防教室を開催したが、コロナウィルス感染防止のため会場の広さをみて参加者人数を10～15人と制限した。また初めて屋外での開催を試みたが、三密を避けることができ参加者にも好評であった。

※今年度は専門職の講師依頼が難しく、主にセンター職員が講師を務めたが、レクリエーション協会、ヨガの先生には依頼することができ好評であった。

(4) 見守りネットワーク支援（年間活動目標数 10回）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
旭ヶ丘二丁目							1					1	2
旭ヶ丘三丁目							1					1	2
旭ヶ丘四丁目							1					1	2
山道			1						1				2
計			1				3		1			3	8

※コロナウィルス感染防止のため5月まで活動制限あり。

※見守りネットワーク連絡会には計8回出席。コロナ禍で今年度開催しない町内が多かったため目標である10回は達成できなかった。開催していない町内には、見守り状況や来年度開催の意向について聞き取りをしている。見守りネットワークが必要な町内に介護予防教室開催の働きかけをして町内会長とのつながりを持つことで1か所の町内と見守りネットワークについて意見交換ができた。

(5) 研修会参加

- ・高齢者虐待や成年後見制度、認知症・精神疾患に関わる研修、地域ケア会議に関わる研修等に積極的に参加し、自己研鑽に努めた。

(6) 休日・夜間等の緊急体制

- ・年末年始以外は営業し、営業日及び営業時間外は交代制で携帯電話を所有することで24時間365日の連絡体制を確保している。

【研修の報告】

(1) 施設内研修

月	日	研 修 名	参加部署	参加人数	
8	12	血液検査結果の簡単な見方	居宅	4名	
	17～ 24	「感染予防対策」 ～厚労省“そうだったのかシリーズ”	全	39名	
	18	分析力が高まるアセスメント	居宅	4名	
	25	アセスメントに必要な16の視点	居宅	4名	
9	4	入退院時の連携	居宅	5名	
	9	疾患別に考える連携・確認のポイント	居宅	5名	
	17	高次脳機能障害とは	居宅	5名	
	24	統合失調症について	居宅	5名	
	29	生活困難者支援	居宅	5名	
10	8	うつ病について	居宅	5名	
	14	事例検討 「ショートステイを長期的に利用する方について」	居宅	5名	
	19	ケアプランチェック報告と今後に向けた対策	居宅	5名	
	26～ 30	介護現場における感染対策の手引き 通所系介護職員のための感染対策マニュアル	デイ	23名	
		介護現場における感染対策の手引き 訪問系介護職員のための感染対策マニュアル	ヘルパー 居宅 高支セ	13名	
	28	介護支援専門員の倫理と基本姿勢	居宅	5名	
11	6	個人情報の取扱いについて	居宅	4名	
	13	居宅ケアプラン策定のための課題検討の手引き	居宅	4名	
	16～ 18	認知症ケア 「異食とは」 「不適切ケアについて」 「レビー小体型認知症について」	デイ	23名	
		21	精神科訪問看護における日常生活の援助の在り方について	居宅	4名
		23～ 27	高齢者の権利擁護・虐待防止法について 不適切ケア ～スピーチロックとは～	デイ	23名
	27	支援経過記録について	居宅	4名	
	12	7	在宅での看取りに関する手引き	居宅	5名
19		認知症の人の日常生活・社会生活における意思決定支援	居宅	5名	
23		相談支援の基本姿勢	居宅	5名	

12	28	第1回階層別研修（全階層） 「アサーティブコミュニケーションを知らう」 「やる気スイッチの上手な使い方」	居宅	5名
	15～ 21	第1回階層別研修（全階層） 「アサーティブコミュニケーションを知らう」 「やる気スイッチの上手な使い方」	デイ ヘルパー 高支セ	32名
3	5～9	ストレスケアの実践	デイ	23名
	10～ 20	高齢者に関わる職員による虐待と、虐待の背景にあるストレスの軽減について	全	37名
	18	軽度者に対する福祉用具貸与の取扱い	居宅	5名
	27～ 29	第2回階層別研修（全階層） 「アサーティブコミュニケーションを実践して」	全	37名

（2）施設外研修

月	日	研 修 名	開催地	参加部署	参加人数
8	25	地域ケア個別会議 (高齢者支援センターえがおに事例提出)	八戸市	居宅	1名
9	2	安全運転管理者講習	八戸市	デイ	1名
	4	認知症実践者研修のファシリテーター	八戸市	デイ	1名
	28	あおもり介護の魅力発信サポーター隊 打ち合わせ会議	青森市	デイ	1名
	30	第1回包括的支援事業研修会 「多職種連携を活かした新型コロナ対策」	八戸市	高支セ	1名
	26	高齢者の特徴的疾患に対する食事面の注意	八戸市	居宅・高支セ	2名
10	7 15・16 20・21 27・28	青森県主任介護支援専門員更新研修	青森市	高支セ	1名
	28	令和2年度感染症対策合同研修会	八戸市	デイ	1名
11	2	〃	青森市	高支セ	1名
12	17	第2回包括的支援事業研修会	八戸市	高支セ	1名
1	7～19	介護サービス従事者向けの感染対策に関する研修 訪問偏・通所偏	オン ライン	全	37名
	13	ゲートキーパー育成研修	八戸市	高支セ	2名
	20	第3回包括的支援事業研修会	八戸市	高支セ	1名
	27	青森県介護支援専門員協会八戸支部研修会 オンライン研修の基本	オン ライン	居宅・高支セ	3名
	27	八戸市医療と介護の多職種連携研修会	オン	高支セ	3名

			ライン		
2	28	高齢者虐待防止研修	オン ライン	デイ	2名
3	5	青森県介護支援専門員協会八戸支部 実務研修実習指導者養成研修	オン ライン	居宅	2名
	8	他法人との合同研修会（生協居宅、さざなみ居宅、 福寿草居宅の3事業所合同）	郵送	居宅	5名
	10	大館東地区ケアマネサロン	八戸市	居宅	1
	15	社会福祉法人向けセミナー	青森市	デイ	1
	25	青森県介護支援専門員協会八戸支部 介護報酬改定について	オン ライン	高支セ	2

※ デイ→通所介護、ヘルパー→訪問介護、居宅→居宅介護支援センター、
高支セ→高齢者支援センター、 全→ケアプラザ福寿草全事業所

令和2年度
ケアプラザさざなみ
事業報告

【デイサービスセンターさざなみ及び

総合事業デイサービスセンターさざなみ 事業報告】

1. 重点目標の実施状況

(1) サービスの質の向上

- ・ノーリフティングケアを実践するために福祉用具の正しい操作・私用方法の研修を行ない、利用者の状態に合わせて使用をした。今後も利用者に福祉用具を理解していただくための働きかけをしながら、良質なサービス提供を図っていく。
- ・コロナ禍において、地域の感染状況を把握しながら、法人の基本方針に基づいた感染マニュアルの整備、物品の確保、委員会を中心とした基本的な感染対策の強化を行った。また、感染者や濃厚接触者が発生した時の備えとして職員全員でマスクや手袋、ガウンの正しい着脱方法の研修を実施した。
- ・事故防止強化のため、月毎に運転に従事する職員の気づきをまとめ、ケアプラザさざなみ全体で共有し安全な運転につなげた。送迎後の車内清掃は、行政の発出に沿った手順書を作成し確実な継続ができた。

(2) 職員の資質の向上

- ・利用者に関わる書類の整備・管理にチェックリストを有効に活用することで、効率的に確実に作業をすすめることができた。
- ・目標管理シートで明確にした個人目標について定期的に上司と面談を行い、実践でのつまづき等についての助言を行った。次年度も、個人が目標を持つことで達成までの過程でのやりがいや意欲につながるようにサポートをしていく。
- ・事業所内研修については、感染症対策に留意した開催方法で行い資質向上に努めた。

(3) 安定した介護報酬の確保

- ・新型コロナウイルスの流行により、有料老人ホームの感染対策による外出禁止、個人の利用者のコロナを恐れての利用控え等の影響により、特に春、秋からの利用者数に減少がみられた。次年度は感染対策の実施、レクリエーションの工夫など具体的な事業所の強みを各居宅支援事業所に伝えながら実績の改善を図る。

2. 具体的な取り組み状況

(1) 利用者延べ人数（令和2年度）

介護型	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
月別延べ人員	740	767	794	801	760	771	780	729	750	687	680	751	9,010

予防型	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
月別延べ人員	42	46	43	50	49	47	46	41	38	46	48	57	553

予防+介護	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
月別延べ人員	782	813	837	851	809	818	826	770	788	733	728	808	9560

(2) 年間行事について

4月	皆勤賞授与式	令和元年度、お休み無く利用していただいた方に、敬意を表しお祝いする。
5月	さざなみ開設記念日	記念映像の上映、特別メニューの昼食とおやつも好評であった。
9月	敬老会	デイサービスの思い出写真や映像をスライドショーにまとめ上映した。賀寿を迎えられる利用者へは表彰状を贈呈し、お祝いした。
11月	小中野幼稚園との交流	園より園児手作りの装飾やお花を頂き、お礼としてお菓子をお渡しした。
12月	クリスマス会	クリスマスにちなんだクイズと、美味しいケーキや飲み物を用意し、クリスマスの雰囲気を楽しむことができた。
12月	忘年会	抽選会を行い、食事は特別メニューにし、好評であった。
1月	新年会	お正月にちなんだゲームやおやつを用意し、新年を祝い楽しんだ。
2月	節分行事	レクリエーションやおやつなど節分にちなんだものを用意し、季節を感じる事ができた。
3月	ひな祭り会	ひな祭りにちなんだクイズを行った。

【ショートステイさざなみ及び

介護予防ショートステイさざなみ 事業報告】

1. 重点目標の実施状況

(1) サービスの質の向上

- ・利用者が安心して快適に過ごしていただくことをチームで考え、福祉用具の適切な使用方法の共有、活用の促進からノーリフティングを一層推進し、介助方法の見直しや環境整備も行なった。チームを編成することで職員同士のコミュニケーションや個々が発言する機会が増えた。
- ・感染症対策を徹底しながら、コロナ禍にあっても楽しめる活動を工夫した。外出レクの代替として県内外・国外の映像を見ていただくことで季節感を味わっていただき、重度の利用者に対しては、足浴やアロマオイルを使用したマッサージ等リラックスできる時間を設けた。
- ・安全な送迎を行うため天候等による道路状況に合わせた運行計画とし、走行中は換気を行い、乗車は個別またはできるだけ少ない人数とする等感染対策も継続した。

(2) 職員の資質向上

- ・行事等の活動計画時に、職員間のコミュニケーションを多く持つことを目標にしたことで、職員其々が経験に応じて伝える力・聞く力の向上を意識した。
- ・利用者に関わる記録物の管理や適正化をチームで行った。次年度はタブレット導入による記録の簡略化と業務の効率化を図っていく。
- ・感染対策に留意し、少人数・短時間での研修や資料回覧での学ぶ機会を持ち、専門性のスキルアップに努めた。

(3) 安定した介護報酬の確保

- ・新型コロナウイルス対策として、体調変化のある方や感染拡大地域と往来のあった方の利用を控えていただいたことと、入院や施設入所の増加によるキャンセルから、目標の介護報酬には届かなかった。
- ・各居宅事業所に定期的に空床情報を伝え、新規利用者の継続利用へつなげるため職員間で細やかな情報共有を継続した。

2. 具体的な取り組み状況

(1) 利用実人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和2年度	94	95	96	95	94	92	95	87	93	89	80	88	1,098

(2) 延べ利用者人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和2年度	739	783	780	810	806	781	787	738	764	755	692	729	9,164

(3) 要介護度別利用者人数

(平均介護度 3.1)

		支援 1	支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
令和	実人数	0	3	114	242	331	251	157	1,098
2年度	%	0	0.3	10.4	22.0	30.1	22.9	14.3	100

(4) 年間行事について

4月	お花見会	市内の桜の映像をスクリーンで上映し、ビニール傘で制作した桜の木と一緒に記念撮影を行い大変好評を得た。
5月	開設記念式典	記念映像の上映、特別メニューの昼食、おやつを提供を行った。
	母の日喫茶	女性利用者の写真を使用したスライドショーの上映と個人宛てたメッセージカードを渡し、母の日を祝った。
6月	父の日喫茶	男性利用者の写真を使用したスライドショーの上映と個人宛てたメッセージカードを渡し、父の日を祝った。
8月	花火大会見学	屋上から打ち上げ花火を鑑賞し、花火が上がる毎に大きな歓声が聞かれ、季節を楽しむ事が出来た。
9月	敬老会	祝者其々の年代の出来事を上映し、時代を懐かしんで頂きながら長寿をお祝いした。
10月	秋の遠足	さざなみ〜種差迄ドライブと散策している映像をガイドの説明と共に放映し現地にいる様な気持ちで楽しんで頂いた。
11月	紅葉ドライブ	県内の紅葉スポットの映像を上映し、名物を模したお茶や秋らしいオヤツを提供することで、季節感を楽しんで頂いた。
12月	お食事忘年会	特別メニューでの食事をゆっくりと楽しんで頂き、県内の祭りの動画を鑑賞しながら1年を振り返った。
	クリスマス喫茶	数種類のケーキと飲み物から好きなものを選択し、クリスマスのBGMの中で食すことで季節感を感じて頂いた。
12~1月	年末年始行事	初詣や初日の出見物を楽しめる様に大画面での映像を流した他、くじ引きゲームや厄除けのアマビエ饅頭を食す会等で年末年始を楽しみ、新年を祝う事が出来た。
2月	節分喫茶	節分にちなんで豆を使用したおやつと、縁起が良いとされるお茶を提供し季節感を感じて頂いた。
3月	ひな祭り喫茶	桃の節句にちなんで桃を使用したお茶と桃色の菓子を提供し、雛飾りとの記念撮影を行い、大変好評を得た。

※上記の他に、季節に合わせた入浴・作品作り・軽い運動などレクリエーション活動を通し心身向上を図っている。

【ヘルパーステーションさざなみ及び

総合事業ヘルパーステーションさざなみ事業報告】

1. 重点目標の実施状況

(1) サービスの質の向上

- ・在宅において各利用者が使用している福祉用具についての共有を行い、正しい使用方法について研修を行った。それぞれの家屋の環境により難しい面もあるが、利用者・家族の理解を得ながらノーリフティングケアを取り入れ安楽な支援に努めていく。
- ・手順書（利用者に提供するサービスの具体的なケアの方法やプロセスをまとめたもの）を分かりやすくするために、居室内や必要物品の写真を用いることで、支援の標準化と特定のヘルパーでなくてもスムーズにサービス提供ができることを図った。
- ・新型コロナウイルス対策については、行政から示された留意事項と法人の基本方針に基づき体制を整えた。各利用者担当の居宅介護支援事業所と連携し、必要がある時は十分検討を行いながら感染対策を徹底してサービスを継続した。
- ・事故防止対策を遵守することに加えて、周辺道路の混雑状況が悪く到着が遅れる時は、訪問先に連絡をし、焦りによる事故を防止した。

(2) 職員の資質の向上

- ・ヘルパー同士で、サービス提供の開始前や終了後の丁寧な報告・相談に心掛け、チームワークの強化を図ることができた。このことについては、取得している加算の要件になっているため、記録も確実にこなした。
- ・各記録の整備、管理について、行政から示されている各種点検シートを有効に活用した。

(3) 安定した介護報酬の確保

- ・年間の介護報酬に対する目標を上回ることができた。述べ訪問回数については目標を下回っているが、1回の支援に対する介護単価の高い身体介護の割合が高いことからの結果となっている。
- ・各ヘルパーごとの研修計画の作成と実施、月1回のヘルパー全員が参加しての会議の開催は、特定事業所加算Ⅱ算定のための要件ではあるが、職員の質の向上にもつながっている。

2. 具体的な取り組み状況

(1) 受け入れ目標数と結果（令和2年度平均）

	介 護		予 防	
	目標数	結果	目標数	結果
実人員	28 人	23.3 人	4 人	5.9 人
1 日利用者数	9.2 人	9.1 人	1.5 人	1.4 人
1 ヶ月延べ人員	238 人	257 人	40 人	35.9 人
年間延べ人員	2,854 人以上	2,880 人	476 人	431 人

(2) 型別年間延べ回数（1 日 2 回の訪問を含む）

	予防	身体介護	身体+生活	生活援助	合 計
2 年度	431	2,038	506	336	3,311

※ (1) の目標数(介護)に対して人員としての結果は達成することができ、目標予算額も達成されている。

【居宅介護支援センターさざなみ 事業報告】

1. 重点目標の実施状況

(1) サービスの質の向上

- ・新型コロナウイルス流行により介護事業所の見学ができない状況にあっても、サービスの種類や特徴がわかる資料を作成し、利用がイメージできるようなわかりやすい説明に努め、迅速なサービスの選択をサポートした。
- ・自立支援に資するケアプラン立案のため、利用者が目指す生活に向けた身近な目標の記載ができるように、専門書を基に演習を実施した。事業所内のケアマネ同士で行うケアプラン内容の点検は、目標の妥当性や、それを達成するため整合性をもったサービス内容となっているかに留意した。
- ・天候による道路の状態、移動ルートの変化を共有し安全運転を継続した。

(2) 職員の資質向上

- ・上半期は、新型コロナウイルス流行による行政からの訪問自粛の求めに応じたため、記録時間の確保が容易にできた。訪問が再開された下半期は、優先順位に応じて記録と訪問業務を進めた。
- ・各サービス事業所に、居宅全体で標準的に的確な情報提供をするため、伝達の項目などの申し合わせを行った。
- ・高齢者に多い疾患の特徴、服薬している薬の作用、注意が必要なポイントについて研修を行ったことで、症状の進行状態を見極め、医療職と速やかに連携できた。

(3) 安定した介護報酬の確保

- ・昨年と比較して入院者が増加し新規要支援者数が減少したが、入院中の利用者の状態を医療連携室を通じて把握し、退院後のサービス導入の時期を予測しながら新規利用者の受け入れを行う等し年間目標件数を達成した。
- ・他法人との事例検討会への参画、高齢者支援センター主催の事例検討会へ参加を計画的に行うことで、特定事業所加算の取得を継続した。

2. 具体的な取り組み状況

(1) 要介護利用者人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
2年度	136	133	133	137	140	140	142	139	138	136	134	139	1647	137

(2) 要支援利用者（事業対象者含む）人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
2年度	11	10	9	10	8	11	9	8	10	11	11	11	119	9.9

(3) 要介護度別利用者人数

	事業対象者	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
2年度	28	39	52	330	474	444	274	125

※中重度者（要介護3～5）の割合は51%となり、昨年より約6%増となった。

(4) 相談内訳（78件）

包括・高齢者支援	家族	医療機関	他事業所
42.3%	34.6%	14.1%	9.0%

※相談件数は昨年度より20件増加し、78件であった。医療機関からの相談は昨年と比較し12.4%増であった。

(5) 終了者内訳（24名）

死亡	特養入所	長期入院	小規模多機能	居宅変更	予防支援
70.8%(17名)	12.5%(3名)	8.3%(2名)	4.2%(1名)	4.2%(1名)	0%(0名)

※入院先で亡くなる方が殆どであるが、在宅での看取り2名、有料老人ホームでの看取りが1名であった。状態の改善による予防支援への移行者はなかった。

【研修の報告】 ケアプラザさざなみ

(1) 施設内研修

月	日	研 修 名	参加部署	参加人数
5	9	ノーリフティングケア技術研修 「福祉用具の適切な使い方」	全体	40名
	18	報連相のポイントを学ぶ	ヘルパー	4名
6	4～29	感染症予防・対策「新型コロナウイルスに対応した環境 整備・手指消毒について」	全体	40名
	7	安全運転に関する研修	全体	40名
	15	職業倫理・法令遵守について	ヘルパー	4名
	22	◎階層別研修（中級階層） 「アサーティブコミュニケーションについて学ぶ ～職員間のコミュニケーションが円滑にすすむためには～」	全体	6名
7	10	◎階層別研修（専門業務階層） 「アサーティブな表現方法を身に付けよう ～自分の気持ちを率直に具体的に伝える方法とは～」	全体	8名
	20	◎階層別研修（上級階層） 「アサーティブな表現方法を身に付けよう ～自分の気持ちを率直に具体的に伝える方法とは～」	全体	8名
8	7	介護技術研修「体位変換について」	ショート	17名
	8	◎階層別研修（監督・指導階層） 「アサーティブな表現方法を身に付けよう ～自分の気持ちを率直に具体的に伝える方法とは～」	全体	4名
	11	医療知識に関する研修 「シャント造設者の管理・膀胱留置カテーテルの管理」	デイ	14名
	18	医療知識に関する研修 「体調変化の小さなサインに気付く観察ポイント」	全体	40名
	21	急変時対応訓練	ヘルパー	4名
	24～27	スライディングシートの使用方法について	デイ	14名
9	9・16	急変時対応訓練	ショート	10名
	29	接遇・マナースキルに関する研修	全体	40名
	29	身体拘束・高齢者虐待防止に関する研修	全体	40名
10	8	安全運転に関する研修	全体	40名
	10	AEDの使用方法・心配蘇生法について学ぶ	ショート	17名
11	2～7	急変時対応訓練	デイ	14名

	28	ノーリフティングケア技術研修 「フレックスボード・リフターの使用方法」	全体	40名
12	12	「感染対策について」	全体	40名
	21	介護技術研修「移乗介助についての学び」	ヘルパー	4名
1	19	「精神疾患を有する人に対するケアの留意点」	ショート	17名
2	12	感染症対策の基礎知識	全体	40名
	19	◎階層別研修（初級階層） 「相手の立場を思い、関係性を築くためには」	全体	3名
	26	◎階層別研修（中級階層） 「相手の立場を思い、関係性を築くためには ～信頼されるリーダーになる～」	全体	6名
3	3	認知症ケアの基本的知識	全体	40名
	11	高齢者虐待防止研修「虐待のない職場づくりのために」	全体	40名
	15・18	◎階層別研修（専門業務階層） 「相手の立場を思い、関係性を築くためには ～信頼されるリーダーになる～」	全体	8名
	17・26	◎階層別研修（上級階層） 「相手の立場を思い、関係性を築くためには ～適切に指導力を発揮するリーダーになる～」	全体	9名
	26	◎階層別研修（監督・指導階層） 「相手の立場を思い、関係性を築くためには ～適切に指導力を発揮するリーダーになる～」	全体	4名
通年		吐物処理演習	全体	40名
通年	毎週	ケアマネとしての適切な関わりと知識習得	居宅	4名
8	12	日中火災避難訓練	全体	40名
9	17～29	無断外出搜索訓練	全体	40名
10	4	地震・津波避難訓練	全体	40名
3	26	夜間火災避難訓練	ショート	10名

(2) 施設外研修

月 日	研 修 名	開催地	参加部署	参加人数	
8	3	八戸地域介護支援専門員Bブロック研修会	八戸市	居宅	1名
	28	令和2年度青森県認定調査従事者新任者研修	青森市	居宅	1名
10	28	社会福祉施設における感染防止対策 ～新型コロナウイルス感染症 ・インフルエンザの流行期に備えて～	八戸市	デイ	2名
11	30	令和2年度 メンター育成研修	八戸市	ショート	1名
2	26	八戸市高齢者虐待防止研修会	八戸市	デイ	2名

		(オンライン研修)		ショート	
3	1	令和2年度ファシリテーター養成研修 (オンライン研修)	八戸市	居宅	1名
	15	「2021.4.1介護報酬改定について」	青森市	ショート	1名

令和2年度
福寿草・さざなみ
有償運送
事業報告

3年度の報告の際は報告しないこととなる

【福寿草・さざなみ福祉有償運送事業報告】

1. 重点目標の実施状況

(1) 法人運営事業との連携強化

- ・本年度も特養、訪問介護等本来の介護サービスを優先したため、ほぼ定期利用の方のご利用となった。(利用登録者 R 元年度 11 名、R2 年度 9 名)。運送回数は、391 回 (元年度 407 回) とわずかに減少した。

(2) 利用者へのサービスの質の向上

- ・定期的利用者がほとんどであるが、昨年度同様丁寧な対応と安全運転及び社内の感染症対策として除菌等衛生管理に努めた。

(3) 職員の資質向上育成

- ・引き続き運転前のアルコールチェックと体調チェックを行い、安全運転・迷惑駐車のないよう心掛けた。

2. 要介護度別利用登録人数 (事業全体 R3 年 3 月 31 日現在)

	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計 (人)
福寿草	0	0	1	1	2	4
さざなみ	0	0	2	1	2	5
合 計	0	0	3	2	4	9

3. 活動実績 (R2 年 4 月 1 日～R3 年 3 月 31 日)

事業所	実働日数 (日)		運送回数 (回)		走行距離 (k m)		実利用人数 (人)		延べ利用 人数 (人)	
	福寿草	さざ なみ	福寿草	さざ なみ	福寿草	さざ なみ	福寿草	さざ なみ	福寿草	さざ なみ
年間合計	0	226	0	391	0	2498.50	0	25	0	197
月平均	0	18.8	0	32.6	0	208.21	0	2.1	0	16.4

4. 報酬実績

	福寿草有償運送 利用料	さざなみ有償運送 利用料
年間合計	0 円	3 4 1, 4 0 0 円
月平均	0 円	2 8, 4 5 0 円
法 人 年間合計	3 4 1, 4 0 0 円	

令和2年度 事業報告の附属明細書

(1) 社会福祉法人スプリング

- ・特別養護老人ホーム福寿草インスプリングの新築建替工事が完了
次の介護事業所を併設する

短期入所生活介護（福寿草インスプリング）

通所介護（福寿草デイサービスセンター）

認知症対応型通所介護（福寿草デイサービスセンターかりん）

訪問介護（福寿草ヘルパーステーション）

居宅介護支援（福寿草居宅介護支援センター）

地域包括支援（八戸市委託事業 高齢者支援センター福寿草）

（竣工 令和2年12月28日）

1階 3144.13 m²

2階 2784.97 m² 合計 5929.1 m²

以上を補足としますが、その他の事項については事業報告と一体的に作成。

(2) 特別養護老人ホーム福寿草

- ・施設建替えに伴い、次の介護保険事業所（福寿草インスプリング）を開設

ユニット型介護老人福祉施設（0270304124）

ユニット型短期入所生活介護（0270304124）

以上を補足としますが、その他の事項については事業報告と一体的に作成。

(3) ケアプラザ福寿草

- ・事業報告と一体的に作成し、補足は特にありません

(4) ケアプラザさざなみ

- ・事業報告と一体的に作成し、補足は特にありません

(5) 福寿草・さざなみ有償運送

- ・事業報告と一体的に作成し、補足は特にありません